

<概要版>

スマート兵庫戦略

～躍動する兵庫～



兵庫県マスコット
はばたん

2022年10月

兵 庫 県

▶ コロナ禍による課題の顕在化

これまでデジタル化が進まなかった分野・領域、またその相互間におけるデジタル化の推進が必要に

▶ デジタル社会の実現に向けた課題

デジタルを最大限活用して、県民の心豊かな暮らし(Well-Being)

やサステナブルな社会を構築する取組が必要

▶ 情報セキュリティ対策の必要性

近年急増する情報漏洩事案やサイバー攻撃に備え、政府機関、本県における情報セキュリティ対策にも万全を期すことが必要

▶ 新たな社会 “Society5.0”、インターネットの変遷 “web3.0”

めまぐるしく進展する技術革新に対応し、社会課題の解決や一人ひとりに最適化されたサービス提供 につなげることが必要

▶ 県内の人口偏在の顕在化

広大な県土を有し、人口偏在が進む本県においては、多様な地域課題が存在し、この解決には、ICT・データの活用が必須

▶ 本県の新たな将来ビジョンとして、「ひょうごビジョン2050」が策定（R4.3月）

ビジョンが目指す“躍動する兵庫”に向け、個人・企業・行政等あらゆるレベルでデジタル化が進み、県民誰もがデジタルの恩恵を享受し、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができる社会の実現が求められる

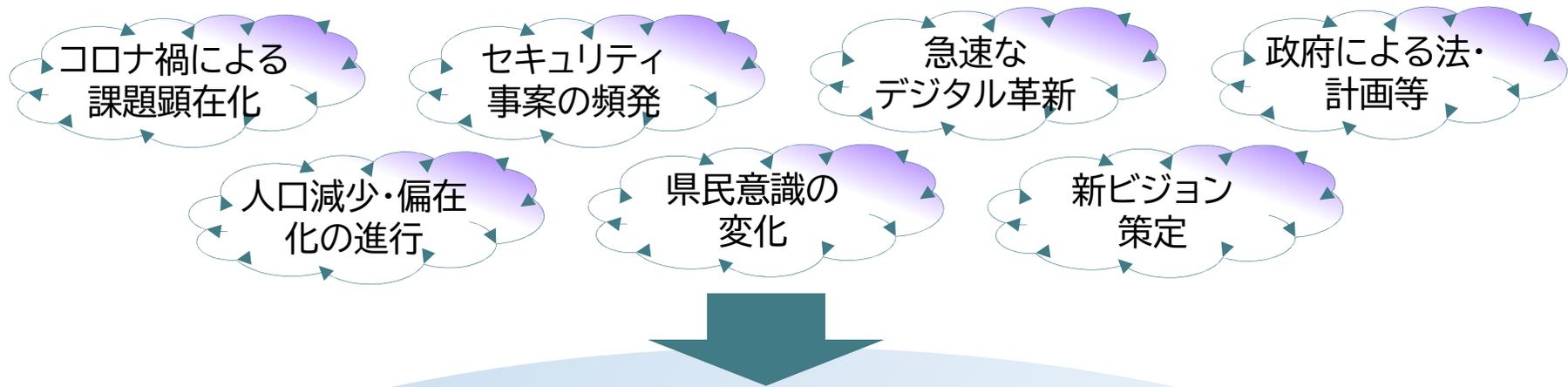


Society 5.0

(出典：内閣府HP)



仮想空間としてのメタバース（出典：バーチャル渋谷HP）



県全域でのデジタル実装の加速化に向け、 「スマート兵庫戦略」を策定(現行プランの改訂)

【策定に向けた考え方】 (推進期間(3年間)でひょうごビジョン2050の実現に向けた基礎を構築)

- **市町連携・公民連携**の基礎を構築し、取組を推進
広大な本県における、多種多様な地域課題を解決するには、市町、企業、団体、大学など様々な主体と連携する必要
- **行政デジタル化**の加速・確立
 - ・県民との接点である行政のデジタル化をいち早く進め、デジタル化を県民が実感
 - ・デジタル社会形成に向け必要な基盤等を整備
- **進捗状況**の評価
実効性確保のため評価指標(KPI)により定期的に進捗状況を把握し進める

2 総論 スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～の概要①

▶ 目的

県全域で**デジタル実装を加速化**し、県民誰もが**デジタルの恩恵を享受**でき、自らのニーズに応じた**サービスを選択できる「スマート兵庫」**の実現

▶ 位置づけ

「ひょうごビジョン2050」のデジタル分野の実行プログラム

(各分野の計画をデジタルの観点から下支え)

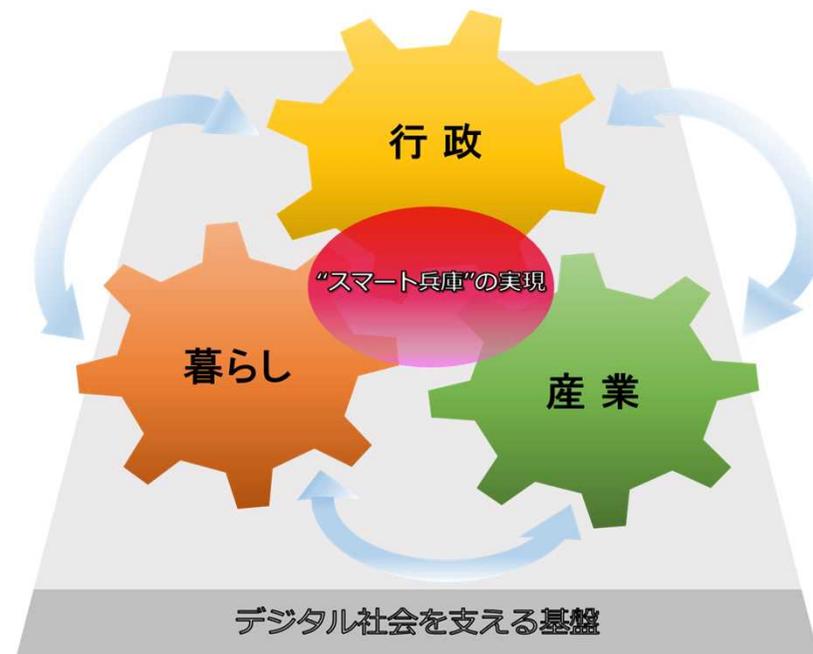
官民データ活用推進基本法に基づく「官民データ活用推進計画」

▶ 推進期間 2022～2024年度（3年間）



▶ 戦略の全体像

県・市町・民間が連携し、行政、暮らし、産業のシームレスなデジタル化を進めることにより、**躍動する兵庫**をめざす



【戦略の基本姿勢】

▶ データ活用による変革

重要性・多様性・容量が増大する「**データ**」を効果的に**生成・収集・利活用**、新たな価値を創出

▶ バーチャル空間の徹底活用

バーチャル空間を最大限活用、時間と空間の制約を超えた、自由度・満足度の高い暮らし・働き方の実現

▶ 多様な主体との連携

企業、団体、大学、市町など**多様な主体との連携**や**県民の参画**により、デジタルの力で地域特性に応じた身近な課題を解決

▶ 機動的で柔軟で継続的な改善

環境やニーズの変化に大胆かつ弾力的に対応できるよう、**機動的・柔軟で継続的な改善**を可能とし、**データを活用して施策の点検と見直しをスピーディに**繰り返す

▶ 誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化

使いやすさ(UI)・使い心地の良さ(UX)の実現、**利用者目線**に立った**利活用性** (アクセシビリティ)に最大限配慮



I 行政のデジタル化



利用者視点のサービス提供や業務プロセス改革による
業務効率化を徹底し、県民満足度を向上

利用者視点の行政サービス



自治体運営の透明化



取組方向

- ① サービスデザイン思考とアジャイル開発のもと、質の高い行政サービスを提供する
- ② 行政のワークスタイルを変革し、事務効率化を推進する
- ③ 自治体運営の透明化を進め、多様な主体との協働につなげる

取組事例	内容	取組事例	内容	
行政手続オンライン化の推進	<ul style="list-style-type: none"> □ 県民の利便性向上と職員の事務効率化を目指し、効果性・実現性の高い手続からオンライン化を推進 <ul style="list-style-type: none"> (1) 主要手続(処理件数年間400件以上)は全て <ul style="list-style-type: none"> ※国の対応や、書面・対面が必要な手続を除く (2) 全手続では、新たに約4,000手続をオンライン化 □ ユーザー意見を踏まえ、継続的に改善し、オンライン利用率を向上 □ 書面・押印・対面等の規制見直し等、業務プロセス改革(BPR)を実施 □ 業務特性や費用対効果を勘案して、最適なオンライン化手法を選択 □ 各手続に最適な本人確認手法(電子署名、ID及びパスワード等)を選択 □ 手続の特性を踏まえ代理申請を可能とする機能を実装 □ デジタルデバイド対策として、県民が利用できるタブレット端末の配置や高齢者等に配慮した設計を実施 		兵庫版シビックテック「ひょうご TECHイノベーションプロジェクト」	市町等から寄せられた地域課題解決に、 県内の社会課題解決型スタートアップ事業者 等が有する情報通信技術等を活用 ※有用な解決技術を持つ事業者をマッチングし、協働で実証実験を実施
			キャッシュレス決済の推進	<ul style="list-style-type: none"> □ 収入証紙による手数料納付の電子化 <ul style="list-style-type: none"> (1) 主要手続(処理件数年間50件以上)は全て <ul style="list-style-type: none"> ※国がシステムを整備予定の手続等は除く (2) 全手続では350手続に導入(R5年度末目標) □ 行政窓口における支払のキャッシュレス化 (R4.11月頃より7カ所ですりて的に導入) □ 納入通知書の電子納付を検討
		『デジCanプロジェクト』の推進(定型業務の効率化)	<ul style="list-style-type: none"> □ AIチャットボット(よくある問合せの自動応答)、RPA(パソコン操作の自動化技術)の活用促進、ノーコードツール(業務アプリの内製開発)等の活用により定型業務を効率化 <ul style="list-style-type: none"> 【AIチャットボット】学生支援、移住相談等 7業務(R4年度未見込) 【RPA】Excel集約、メールの振分保存等 131業務(R4年度未見込) 【ノーコードツール】新型コロナ対策業務等 34業務(R4.6月末時点) □ 庁内向け情報誌「デジCanマガジン」、掲示板、研修等により、職員のICT活用による業務改善を促進 	

その他取組事例

- ▶ 電子契約・電子公印の導入推進
- ▶ 会議のクオリティ向上
- ▶ オープンデータの推進
- ▶ EBPMの推進



II 暮らしのデジタル化



健康・医療・介護

教育・子ども

モビリティ・インフラ



リアルとバーチャルでつながり、誰でも健康で快適な暮らしを享受し、心豊かな暮らし(Well-Being)を実感

取組方向

- ① 医療・福祉分野へのICT活用により、ライフステージに応じた健康で快適な暮らしを実現する
- ② 子どもの個性を伸ばす教育を行うとともに、生涯を通じた学びの選択肢を広げる
- ③ 災害時等においても、安全で安心な暮らしを確保する
- ④ 国内外との双方向の交流を深め、多様な暮らしや働き方を広げる

取組事例	内容	取組事例	内容
防災情報の的確な発信	<p>□県民への情報発信 災害時における県民的確な避難行動を支援するため、CGハザードマップをプラットフォームとして、洪水・高潮浸水想定区域や土砂災害警戒区域等とともに、河川ライブカメラ画像によるリアルタイム情報、2時間先までの土砂災害危険度情報を発信。急激な水位上昇が見込まれる河川では、大雨洪水注意報・警報発表時に回転灯で警告する増水警報システムを運用</p>  <p>河川ライブカメラ画像</p>	<p>遠隔医療の推進</p> <p>□情報通信機器を活用することで、医師対医師(DtoD)の遠隔医療を推進</p> <p>□地理的理由等で往診・通院が困難な患者にテレビ電話等の機器貸与により過疎地など遠隔地からの診療を支援</p> 	
	<p>□市町への情報提供 市町による避難指示等の発令を支援するため、6時間先までの河川の氾濫予測情報を配信するとともに、出水時に河川の水位変化や見通しを市町長等に直接伝える河川情報ホットラインを構築</p>  <p>土砂災害危険度情報</p>	<p>2025「大阪・関西万博」を見据えた取組の推進</p> <p>□万博会場から兵庫に人の流れを創出するため、関西パビリオンに「兵庫棟」(仮称)を設置するなど、来場者に、最新デジタル技術を利用した臨場感あふれる展示等を通じて、県内各地で展開するフィールドパビリオンなどの魅力を発信</p> <p>□兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化に向け交流人口を拡大</p> 	
その他取組事例	<p>▶循環器病医療連携ネットワークの構築</p> <p>▶GIGAスクール構想の推進</p> <p>▶eスポーツを通じた地域課題解決への調査・検討</p> <p>▶MaaSの推進</p>	<p>空飛ぶクルマの社会実装推進</p> <p>県及び民間計5者により、空飛ぶクルマの振興を通じた地域創生の取組にかかる協定を締結し、連携を強化。「HYOGO空飛ぶクルマ研究室」の取組を通じ、次世代モビリティとして注目される空飛ぶクルマの社会実装を推進</p>  <p>(出典：経済産業省ウェブサイト)</p>	



Ⅲ 産業のデジタル化



ものづくり

農林水産

エネルギー



生産性向上や新たな価値創造 (innovation) を促し、内外からの投資、誘客・交流を促すことで、持続可能な環境・社会・経済 (sustainability) を実現

取組方向

- ① 世界最先端の科学技術基盤を生かし、スタートアップや産業の集積を図る
- ② スマート化により農林水産業の効率化や持続的発展を図り、『御食国ひょうご』の実現を目指す
- ③ エネルギー利用の最適化等により、脱炭素社会(カーボンニュートラル)を実現する
- ④ 産業を支える人材がデジタル技術を活用し、持てる力を発揮する

取組事例	内容	取組事例	内容
スーパーコンピュータ「富岳」の活用	R3年に共用開始した スーパーコンピュータ「富岳」 (新型コロナウイルスの飛沫・エアロゾル拡散モデルを構築。今後線状降水帯予測への活用も期待) の立地メリットを発揮し、県外高度人材との技術交流やネットワーク強化により、県内研究機関等における技術者の高度化を図り、 先端技術人材の県内集積を促進 。 ものづくり、健康医療など幅広い分野 で次代をリードする新たな知見やテクノロジーを創出  世界最高水準スーパーコンピュータ「富岳」(出典：理化学研究所)	兵庫型スマート農業技術導入の推進	AIやドローンによる画像解析技術 等を活用したピンポイントでの農薬・肥料散布や リモコン式自走草刈機 の活用、 自動水管理システム の導入等を支援 
SDGs課題解決を目指す共創プログラム「SDGs CHALLENGE」	県・神戸市等が連携 し、グローバルなSDGs課題解決に挑むスタートアップ等を対象に、事業開発、海外実証及び展開を支援 	PPA方式による再生可能エネルギーの導入促進	県内企業等への普及拡大に向け、初期投資不要なPPA方式(第三者所有型モデル)を活用し、先行的に県施設等へ太陽光発電設備を導入。併せて、導入施設間の 需給バランス最適化 等について調査
その他取組事例	▶放射光産業利用の促進	ひょうご水素社会の推進	産学官連携で水素社会の実現に向けた気運醸成を図り、淡路島の豊富な 再生可能エネルギーから水素を製造、貯蔵 し、施設やモビリティに利活用する エネルギー地産地消モデルの構築 及び実装に向けた調査等を実施 

その他取組事例

▶放射光産業利用の促進

▶スマート農業技術のマッチングの推進

▶中小企業DX人材育成の推進



IV デジタル社会を支える基盤を確立



多種多様な環境やニーズを踏まえ、誰もが、いつでも、どこでも、デジタル化の恩恵を享受できる基盤を確立

デジタル基盤



デジタルデバインド



取組方向

- ① 必要な情報・サービスに安全かつ容易につながるネットワークを構築する
- ② 県内市町をはじめ関係機関との連携を図り、誰もがデジタルの恩恵を受ける環境を整える

取組事例	内容
5Gの推進	<ul style="list-style-type: none"> □ 5Gアンテナ基地局開設促進に向け、県保有施設情報を公開し、近畿初の通信事業者へのワンストップ窓口を設置 □ スマートファクトリーのデモンストレーション設備の設置、中小企業向けセミナー開催。AI画像解析によるコーチング、AIカメラ等のスポーツ分野への活用等の実装を実施
「兵庫情報ハイウェイ」の利用推進	<p>県全域を結ぶ「兵庫情報ハイウェイ」、加えて、東京まで結ぶ「兵庫情報スーパーハイウェイ」を整備・運用。県庁WANや教育情報ネットワーク等での活用、通信事業者等への回線提供、企業誘致やワーケーションなど地域創生の取組への活用等を推進</p>
県・市町協働によるデジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none"> □ 県・市町等で構成する兵庫県電子自治体推進協議会において、人材育成やセキュリティ対策等を含めデジタル化を推進し、県内全域でICTを活用した質の高い行政運営を実現 □ 法律に基づき、標準化対象業務について国のガバナントクラウド上に構築された標準化基準に適合した情報システムへの移行を進めるとともに、市町の円滑な移行に向け必要な助言と情報提供を行い支援

取組事例	内容
スマートシティモデル事業	<ul style="list-style-type: none"> □ 人口減少、経済の縮小等、社会課題の解決に必要なとされるスマートシティが注目されているが、エコシステムが確立されておらず、取組は実証レベルどまり □ 県は、地域課題解決の新たな取組に意欲があり、企業・大学との共創を視野に入れて取り組むモデル地区(市町)を公募 □ 県コンソーシアムを組成し、市町連携・公民連携により、モデル地区のエコシステムの確立に向け、データ連携基盤(データ連携の仕組みづくり)など県全域のデジタル実装を加速化するための基礎づくりを推進
デジタルデバインド解消プロジェクトの展開	<ul style="list-style-type: none"> □ 高齢者が身近な場所(公民館等)で行政アプリやスマホ用のWebサイトの使い方を学べる講座を実施。スマホの基本操作や行政サービスの利用を教えることができる人材を養成し、地域での教え合いを促進 □ 障害者を対象としたパソコンやスマホ等の相談に対応する窓口の設置やITスキル入門講座の開催



その他取組事例

▶「テレワーク兵庫」の推進

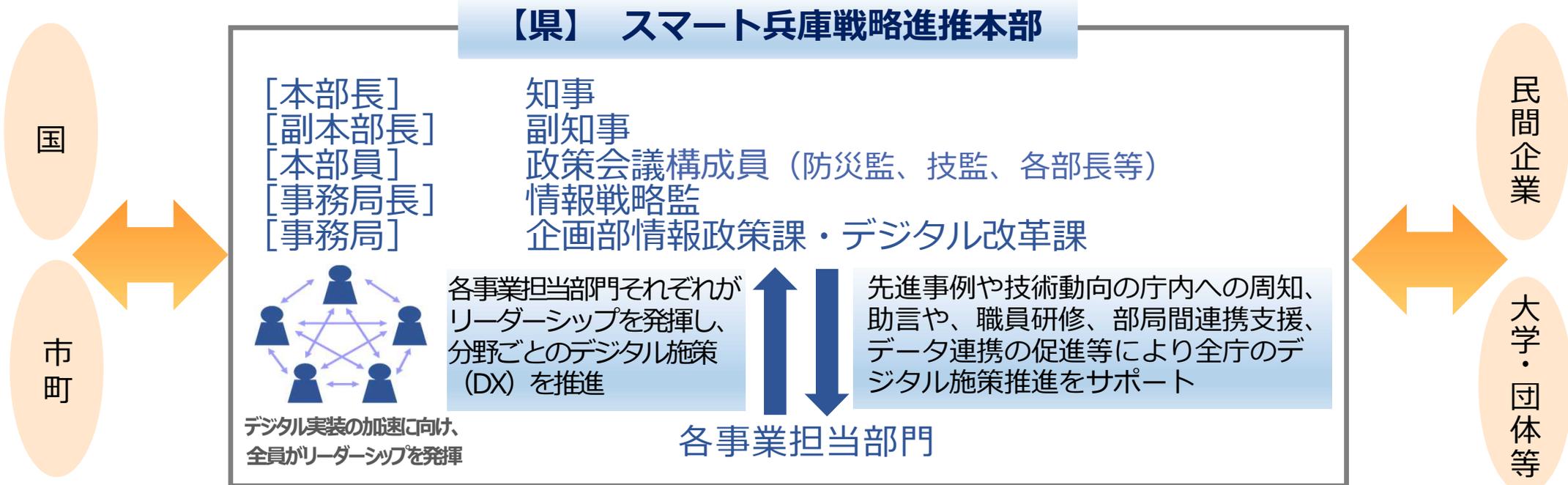
▶ 県・市町情報セキュリティ対策の取組強化

▶ 青少年インターネット利用対策の実施

3 推進体制 及び 評価

➤ 推進体制

「スマート兵庫戦略推進本部」(事務局長:情報戦略監)を設置し、県のデジタル施策を全庁横断で推進



➤ 評価

年度ごとに進捗状況をまとめ、有識者の意見を聴取し、客観的な評価を着実に実施

【アウトカム】 戦略の評価

- ・「ひょうごビジョン2050」に係る「兵庫のゆたかさ指標」(策定予定)
- ・各分野に係る「基本的な計画」等の指標

【アウトプット】 個別のデジタル施策の評価

KPI(アウトプット指標)により達成状況を評価

により評価



状況の変化等に応じた柔軟な見直し
デジタル化の進展が急速であるため、ICTを取り巻く環境変化、戦略の取組状況、県民ニーズに応じて、**行政の無謬性**にこだわらず、見直しを柔軟に実施する**アジャイル型政策形成**により、実効性を確保

➤ 「行政」「基盤」のデジタル化の進捗状況

早期に確立すべき行政のデジタル化のため、ダッシュボードにより見える化し、県民へ進捗状況を発信

【参考】スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～の取組概要①

		取組方向	取組事例
I 行政の デジタル化	① サービスデザイン思考とアジャイル開発のもと、質の高い行政サービスを提供する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ いつでも、どこでも、簡単に、手続きできる行政サービスを実現し、県民の満足度を高める ▶ マイナンバーカードの普及と利活用を推進し、行政手続の簡素化・迅速化等により県民の利便性の向上を図る ▶ デジタル技術を活用し、増大する行政需要に迅速かつ柔軟に対応する 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 行政手続オンライン化の推進 <input type="checkbox"/> 電子契約・電子公印の導入推進 <input type="checkbox"/> キャッシュレス決済の推進 <input type="checkbox"/> マイナンバーカードの普及及び利活用促進
	② 行政のワークスタイルを変革し、事務効率化を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ICTツールの有効活用により作業時間を削減し、事務を効率化する ▶ ペーパーレス・ストックレスを推進し、会議の質の向上や職員のクリエイティブな時間の更なる創出を目指す ▶ デジタル環境を整備し、働き方の自由度や働きがい、モチベーションを高める 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 『デジCanプロジェクト』の推進（定型業務の効率化） <input type="checkbox"/> 会議のクオリティ向上 <input type="checkbox"/> 兵庫スマートワークプレイスの実現
	③ 自治体運営の透明化を進め、多様な主体との協働につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ▶ オープンデータを推進し、自治体運営を高度化・効率化・透明化する ▶ 民・産・学・官によるデータ利活用を促進し、協働・連携による社会課題の解決につなげる ▶ DX人材を育成し、データ等に基づいた政策形成による良質な行政サービスを提供する 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> オープンデータの推進 <input type="checkbox"/> ひょうご公民連携プラットフォームの機能拡充 <input type="checkbox"/> 兵庫版シビックテック「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」 <input type="checkbox"/> EBPMの推進
II 暮らしの デジタル化	取組方向		取組事例
	① 医療・福祉分野へのICT活用により、ライフステージに応じた健康で快適な暮らしを実現する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 兵庫に集積する健康医療産業の技術を活用し、より高度なサービスが提供できる医療先進地を目指す ▶ 多様なデータを活用し、県民の生活習慣の改善や健康寿命の伸長につなげる ▶ ICT機器や医療・介護用ロボット等により、どこにいても適切な医療や介護サービスが受けられる ▶ 子育て親子をSNSを活用し支援する等、地域とのつながりが持てる社会をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ビッグデータを活用した個別要介護リスク予測AI開発 <input type="checkbox"/> ICTを活用した循環器病医療連携ネットワークの構築 <input type="checkbox"/> 遠隔医療の推進 <input type="checkbox"/> ロボットリハビリテーションの推進
	② 子どもの個性を伸ばす教育を行うとともに、生涯を通じた学びの選択肢を広げる	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ICTツールを最大限に活かし、一人ひとりの個性に合った最適な学びを実現する ▶ 遠隔・オンライン教育を活用し、学びにおける時間・距離の制約を取り除く ▶ 誰もが学びたいときに学びたい場所で学べるよう、リカレント教育にICTを活かす 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> GIGAスクール構想の推進 <input type="checkbox"/> プログラミング教育の推進 <input type="checkbox"/> 生涯学習施設等におけるICT利活用
	③ 災害時等においても、安全で安心な暮らしを確保する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 阪神・淡路大震災をはじめ過去の災害等により兵庫が培った経験を活かし、ハード・ソフト 両面から、防災・減災対策を進める ▶ 情報収集力を強化し、事故や犯罪の少ない安全な基盤を整える 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 防災情報の的確な発信 <input type="checkbox"/> 防災システムの活用による情報収集力強化
④ 国内外との双方向の交流を深め、多様な暮らしや働き方を広げる	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 五国の魅力発信、ワーケーションの推進により、国内外から観光で兵庫を訪れ楽しんでもらう ▶ 先端技術を用いた交流により、地域課題解決や新たな価値の創出につなげる ▶ MaaS等デジタルを活用したモビリティサービスを推進し、移動・交通の利便性を向上する 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 企業のテレワーク、ワーケーションの推進 <input type="checkbox"/> 「兵庫テロワール旅」の推進 <input type="checkbox"/> eスポーツを通じた地域課題解決への調査・検討 <input type="checkbox"/> 2025「大阪・関西万博」を見据えた取組の推進 <input type="checkbox"/> 空飛ぶクルマの社会実装推進 <input type="checkbox"/> MaaSの推進 	

【参考】スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～の取組概要②

		取組方向	取組事例
Ⅲ 産業の デジタル化	① 世界最先端の科学技術基盤を生かし、スタートアップや産業の集積を図る	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 本県に立地する世界有数の科学技術基盤を活用し、新技術を実装する ▶ 様々な実験ができる地域多様性の下、大学・研究機関等と連携し、兵庫発のイノベーションを創出する ▶ スタートアップや成長産業を育成し、暮らしの持続可能性を高める産業を集積する 	<ul style="list-style-type: none"> □ スーパーコンピュータ「富岳」の活用 □ 放射光産業利用の促進 □ SDGs課題解決を目指す共創プログラム「SDGs CHALLENGE」
	② スマート化により農林水産業の効率化や持続的発展を図り、『御食国ひょうご』の実現を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ▶ スマート技術の導入が進展し、気候風土が異なる五国の特性を活かした多様な農林水産業が展開する ▶ AI・IoTやドローンの活用等により、農林水産業の作業の省力化など生産性向上と製品の高品質化等を飛躍的に向上する 	<ul style="list-style-type: none"> □ スマート農業技術のマッチングの推進 □ 兵庫型スマート農業技術導入の推進 □ ICTを活用した獣害対策の推進
	③ エネルギー利用の最適化等により、脱炭素社会(カーボンニュートラル)を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 温室効果ガス排出量削減に向け、再生可能エネルギー導入拡大を目指す ▶ カーボンニュートラルな資源を有効活用し、エネルギーの地産地消に貢献する ▶ 水素関連産業が兵庫に集積し、水素の活用が県民に普及する 	<ul style="list-style-type: none"> □ PPA方式による再生可能エネルギーの導入促進 □ 木質バイオマス有効利用の推進 □ ひょうご水素社会の推進
	④ 産業を支える人材がデジタル技術を活用し、持てる力を発揮する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 不足する産業分野におけるデジタル人材を確保・育成する ▶ 中小企業のデジタル化を進め、生産性向上や技術開発を促進する ▶ 地域に根付くものづくり産業を先端技術と融合、進化させ、地域経済を牽引する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 兵庫県地域活性化雇用創造プロジェクト □ 中小企業DX人材育成リカレント教育の推進 □ 建設業におけるDXの推進
		取組方向	取組事例
Ⅳ デジタル社会を支える基盤を確立	① 必要な情報・サービスに安全かつ容易につながるネットワークを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ いつでも、どこでも、“つながる”通信ネットワークを整備する ▶ 超高速大容量通信基盤を整備し、自治体や事業者、地域創生の取組に活用する ▶ 情報セキュリティ対策を強化し、不正アクセスや個人情報漏えい等を防止する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「兵庫情報ハイウェイ」の利用推進 □ 5Gの推進 □ 「テレワーク兵庫」の推進 □ 県・市町情報セキュリティ対策の取組強化
	② 県内市町をはじめ関係機関との連携を図り、誰もがデジタルの恩恵を受けられる環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報や課題を共有し、人材育成など、県・市町間連携によるデジタル行政を推進する ▶ 高齢者や障害者等のデジタルデバイドを解消し、誰一人取り残されない社会を構築する ▶ 青少年の安全・安心なインターネット利用を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> □ スマートシティモデル事業 □ 県・市町協働によるデジタル化の推進 □ デジタルデバイド解消プロジェクトの展開 □ 青少年インターネット利用対策の実施